

今回は、半導体市場の状況についてお伝えします。

## 半導体市場の状況

本誌でも今までに何度か半導体不足の状況をお伝えして来ましたが、今年の夏頃から半導体市場のブレーキが鮮明になってきたとの記事が日経新聞等で取り上げられています。最近の市場の状況はどうかについてお伝えします。

### ◆半導体メモリ価格の値下がり

半導体をロジックとメモリに分けると、メモリの市況が急速に悪化しておりDRAMとNAND Flashの価格低下が進み価格予測の下方修正が繰り返されているようです。半導体市場調査会社TrendForceによると、データの一時保存に使う「DRAM」の7～9月期の価格が4～6月期比で10～15%、長期保存に使う「NAND Flashメモリ」は供給過剰により、13～18%の下落になると推定されています。

[NAND Flashメモリ]

'22年第3四半期(推定)と第4四半期(予測)の前四半期比価格下落率

	3Q22 E		4Q22 F	
eMMC / UFS	13~18%	↓	13~18%	↓
Enterprise SSD	10~15%	↓	15~20%	↓
Client SSD	10~15%	↓	15~20%	↓
3D NAND Wafers	30~35%	↓	20~25%	↓
Total NAND Flash	13~18%	↓	15~20%	↓

(出所:TrendForce '22年9月)

### ◆値下がりの背景

半導体メモリ価格の急激な値下がり、需要が急速に冷え込んだことによる在庫の急増が主な要因だとされています。半導体メモリ大手メーカーは2020年後半からの需要増と供給不足に応える形で供給数量を増やしてきました。ところがコロナ禍の巣ごもり需要が一巡したタイミングでウクライナ紛争による世界的なエネルギー価格の上昇と燃料価格や食料価格などの消費者物価の急激な上昇によって、2022年夏以降は個人消費が大幅に落ち込みました。スマートフォンとノートパソコンおよびテレビの需要が急速に冷え込み在庫が予想よりも減らないことが値下げに結び付いていると考えられます。TrendForceによれば、季節要因として注目すべきなのは、クリスマス商戦に代表される第4四半期(10月～12月期)の消費需要拡大がもはや期待できないとの予測です。

### ◆半導体市場の動向

メモリー分野では、在庫急増による発注量の急減により、現在の供給量では大幅な供給過剰となり値下がりが続きそうです。対策として一部の半導体メモリ大手は供給を絞り始めたようです。9月29日にMicronは四半期業績の説明の中で、供給増を基本とする現在の方針を直ちに改め、需要に応じた供給へと生産数量を調整すると述べました。ほぼ同じタイミングの9月30日にキオクシアは、NANDフラッシュメモリ工場へのウェハ投入量を10月以降は約3割削減するとともに、需要動向に沿った生産調整を実施すると発表しました。

半導体不足の緩和には供給と需要の両面の要因が影響します。供給面では、半導体の製造企業が積極的に生産能力の増強を進めています。一方、需要面ではパソコンなどのハイテク製品の需要が、循環的な減少局面に入っています。このように半導体不足解消に向けた動きは進んでいますが、解消の時期はまだ分らないのが実情です。これまでの生産能力の増強は製品間でばらつきがあり、先端半導体の生産が優先されてきました。実際、パソコン向けやスマートフォン向け半導体の供給は円滑でしたが、自動車向けや家電向けの半導体は深刻な不足に陥りました。自動車向けや家電向けの半導体にはいわゆるレガシー（旧型）半導体が多く特に、自動車向け半導体の供給不足は深刻な状況のままです。今後半導体不足は解消に向かうとは思いますが、それがいつになるのかについては今のところ読めない状況なので、動向を注意深く監視しながら部品調達を進めることが大切と考えています。

## 展示会に出展

今月 以下の展示会に出展させて頂きました。

- ・「第1回関西ものづくり ODM/EMS展」10月5日～7日、インテックス大阪
- ・「産業フェア in 信州 2022」10月21日～22日、長野市ビッグハット

電子機器の開発から製造までをワンストップで対応できることと電子部品の入手困難の対応策についてアピールさせて頂きました。多くの皆様に弊社ブースに来て頂きまして誠にありがとうございました。